

Contents

震災復興への取り組み

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」を開始
 — 天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖業生産システムの実用化に向けて — 2
 地震や津波で東北の海や生き物はどうか？ 4
 コラム：ヒラメ資源回復に向けた支援 5

特集 プリ

プリ 6
 回遊 アーカイバルタグでプリの動きを追跡 10
 養殖新技術 天然魚より、早く大きく育てて赤潮被害を乗り越える 12
 疾病対策 遺伝子情報を解読してワクチン作製 14
 育種研究 ハダムシ寄生症への抵抗性のある家系を作る 16

研究の現場から

「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル」構築に向けて
 みんなでつくる「魅力ある漁業」 18
 漁業者だけでなく企業や消費者も一緒に
 「白村といえばタチウオ！」をめざして 20

あじいの魚菜に乾杯

第22回 寒さ厳しい今宵は、旨味たっぷりて温まるキンメダイのピヤペー
 ス風と絶品のしゃぶしゃぶで！ 24

研究成果情報

ジーンバンク配布株の紹介②
 — 動物プランクトン シオミズツボムシ — 26
 公海サンマ採集の実現に向けた運搬船利用技術の開発 27
 太平洋クロマグロの産卵場を調べる 28

知的財産情報

効率よくアルギン酸から単糖を生成 新しいアルギン酸リアーゼを発見 29

会議・イベント報告

広島で開催されたPICES-2012 30
 テクノオシャン 2012 オーガナイズドセッションを開催 31
 サマー・サイエンスキャンプ 2012 を実施 32
 「海からのメッセージ 2012」を開催 32

ピックアップ・プレスリリース

低温ワムシ育成によるスケトウダラの仔稚魚飼育技術を開発
 稚魚 27,000 匹の生産に成功 天然資源の変動要因解明に向けて前進 33

刊行物報告

研究開発情報 「北の海から」 第 14 号 34
 東北水産研究レター No.25 34
 平成 23 年度中央水産研究所研究成果集 研究の動き 10 号 34
 日本海 リサーチ&トピックス 第 11 号 34
 ななつの海から 第 3 号 34
 瀬戸内通信 第 16 号 34
 水産総合研究センター研究開発情報 西海 No.12 34
 海洋水産資源開発ニュース No.408 (遠洋かつお釣: 太平洋中・西部海域) 34
 海洋水産資源開発ニュース No.409 (遠洋まぐろのはえなわ: 太平洋中・東部海域) 34
 海洋水産資源開発ニュース No.410 (海外まき網: 熱帯インド洋及び熱帯太平洋海域) 34
 海洋水産資源開発ニュース No.411 (沿岸いかつお: 長崎県壱岐周辺海域) 34
 水産技術 第 5 巻第 1 号 34
 おさかな瓦版 No.49、No.50 34

■おさかな チョット耳寄り情報 その33
 ご存じですか? 「年取り魚」 35
 ■編集後記、執筆者一覧 35

表紙写真	A B C	A: 水揚げされたプリ B: 調理実習でタチウオを三枚におろす大分県の高校生 C: スーパーに並ぶタチウオ
------	-------	---

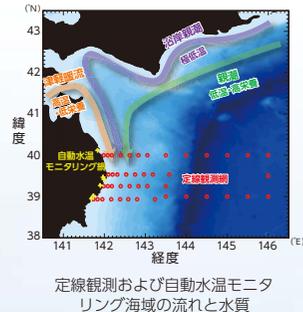
震災復興への取り組み

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」を開始
 — 天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖業生産システムの実用化に向けて —

水産総合研究センターは、東日本大震災の被災地域を新たな食料生産地域として再生するための農林水産技術会議委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」で、被災県や大学などとともに漁業・漁村型の実証研究「天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖業生産システムの実用化・実証研究」と「地域資源を活用した省エネ・省コスト・高付加価値型の水産業・水産加工業の実用化・実証研究」を実施しています。

ここでは、「天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖業生産システムの実用化・実証研究」について紹介します。

この研究は、三陸沿岸の漁業・養殖業の生産に大きな影響を及ぼす海水温・塩分・海流・プランクトンの分布などの海の状態を予測するシステムを作り、岩手県沿岸で重要な産業となっているワカメ養殖業、サケ漁業、沿岸漁業を効率化する仕組みを導入し、当面の水産業の復旧支援にとどまらず、低コスト化、高収益化の実現によって水産物供給基地と



2 三陸サケ回帰率向上を図る

サケ稚魚の放流後の生き残りを左右する親潮系のプランクトン量をモニタリングするシステムを開発し、

しての機能強化をめざします。この目標のため、以下の4つの実用化・実証研究に取り組みしていきます。

1 沖合・沿岸海洋環境情報を集める

岩手県沿岸域の各地に観測機器を設置して海洋環境モニタリング網を再構築し、データを漁業関係者などに発信するとともに、海況予測技術開発に活用するための研究を行います。そのほかにも位置網入網予測情報配信システムの開発を実施します。

3 三陸里海モデルで沿岸資源を管理する

クロソイ、カレイ類、アサリなどの増殖に適した場所を選定し、餌生物や競合種の生息量を考慮した放流技術を開発します。放流しても資源量が向上しない魚種は、その原因を特定して新たな増殖戦略を検討します。そのほか、

低コストで高品質な放流種苗生産技術の実証、沿岸資源の再生と持続的利用のための実証を行います。



4 ワカメなどの大規模養殖の効率化を図る

ワカメ養殖の施設構造、刈り取り(収穫)とボイル塩蔵加工の省力化装置などシステム全体の開発構想



を概念設計し、試験用養殖漁場での開発装置などの実証試験を通してワカメ養殖業の生産性を高めるための大規模機械化システムを設計します。そのほか、大規模養殖ワカメ刈り取りおよび自動引き装置の開発、ワカメ自動芯抜き装置の開発(2014年度から着手予定)、ワカメ生産およびコンブ乾燥の高度化・省エネルギー化技術の開発、大規模ワカメ養殖に対応した省力化システムの実証(14年度から着手予定)を行います。

「天然資源への影響を軽減した持続的な漁業・養殖業生産システムの実用化・実証研究」共同実施機関

- 岩手県水産技術センター
- 北海道大学
- 岩手大学
- 東北大学
- 広島大学
- 北里大学
- 石村工業株式会社
- スタンレー電気株式会社
- 社団法人漁業情報サービスセンター